

足で発掘
地元需要

母ちゃんたちの 野菜販売部隊が行く！

宮城県登米市・いって見っぺごこの市

写真=高木あつ子 文=編集部



今日も野菜売るぞー！
エイエイオーツ！



ごこの市には、JAみやぎ登米女性部の石越支部有志メンバー22人が参加している。右から4人が代表で女性部支部長の工藤かよ子さん。この日は12人が出荷した

「待つてるだけじゃダメだ！」

週1回の産直市「いって見っぺ ごこの市」を始めて半年後、徐々に遠く客足に業を煮やした母ちゃんたちが、「待つてるだけじゃダメだ！」と野菜を車に積んで売り歩き始めた。

最初は、「とにかくあるって(歩いて)みっぺ」と、恐る恐るなじみの友達や元勤め先の同僚の家へ活動が口コミで広がると「うちにも寄って」「ここも来てよ」と声がかかるようになった。それから丸4年。今や、ごこの市の野菜を待つてるお客さんは40〜50軒。毎週金曜日のお昼前後に一軒一軒まわり、ほんの2時間弱で計3万〜4万円分の野菜を売ってしまう。「これまでの売り上げを全部合わせれば、500万円以上にはなるんじゃないですか」と代表の工藤かよ子さん(63歳)。

車で10分も行けばスーパーもあるし、どこの家も家庭菜園くらいはある。でも、そんな地域でも野菜は売れる！

足で地元需要を掴んだお母さんたちの野菜販売に密着！

9:30
出発準備



スーパーには負けない！ 鮮度と品揃え

みんなが持ち寄った野菜は活動拠点にしている農協の加工所前にいったん並べる。トマト、ナス、キュウリ、ピーマンの定番野菜から、この時期には珍しいホウレンソウ、ニンジン、レタスなどとにかく種類が豊富！力が弱い高齢者や忙しい女性向けにカボチャはカットしたものもある。旬のトウモロコシはすぐ食べられるようゆでたても用意。「安売り競争にならないように、みんなで話し合っって量や種類を調整しています。いい物をちゃんとした価格でお客さんに届けたいですから」

いってきまーす！



出かける車とJA支所前で産直をする車の計4台に分けて野菜を積みこむ。出かける車のほうがよく売れるので、「これ積んだ〜?」とさりげなく自分の野菜を積み込む人も

出発準備完了!

トランクを開けるとまるで八百屋さん。1台に1つ積み保冷バッグには、カット野菜や加工品を入れる。今回同行させてもらった車の当番(売り子)は富塚あい子さん(左)と板倉松子さん。車を出した人や当番の人には、ガソリン代や日当が出る

積み忘れはないかな?

